

法話 ののさまのお育て

生きろ喜びと

慚愧の気持ちを忘れずに

河智 義邦 師

岐阜聖徳学園大学教授

いのちの教育

「手を合わせてください」

「多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました」

「深くご恩を喜び、ありがたういただきます」

わが家における晩ごはんのはじまりの光景です。最初とその次のフリーズを、幼稚園の年長クラスの娘が、しばらく前から目的に率先して言ってくれるようになりました。

山間の過疎地域にあるお寺の住職を務めています。兼務する仕事の都合もあって、普段は家族とともにお寺を離れて生活をしていきます。そのため、坊主である妻とは、かねてからお寺の幼稚園に入園させたいと相談していました。そして入園してから3年近くが過ぎ、卒園を迎えようとしています。

園の先生方には、人間性の土台を形成する幼児期に、豊かな情操を育む教育、いのちの教育をしていただいたこと

を有り難く感じています。そうした園での幼児教育・保育を。わたし流に「ののさま教育」と呼んでいます。

「ののさま」とは、仏さまなど尊ぶべきものを指している幼児語のことをいうと辞書にあります。私自身も幼いときに「ののさま教育」をいただいた一人です。

そうした「ののさま教育」の根幹は、浄土真宗においては、いのちの真実を私どもに伝えてくださる阿弥陀さま(ののさま) 教えに出会うことにあります。それはまた、先立ってその教えを依りどころとしている人を通して伝えられていきます。

園の先生方に導かれ、日頃から「ののさま」の前で合掌する、念仏を申す、礼拝をする、仏教讃歌や食事のことばを唱和する、といった行為・形を通して、自然に「ののさま」の心が薫習くんじゅうしていき、豊かな情操となっていくように思っています。

また、「いつものののさまが皆さん一人一人をご覧になっていよるよ」、その言葉によって、自分のいのちを大切に思える自尊感情が育まれ、他者とともに生活する上で欠かせない基本的な倫理道徳観にもつながっていると思います。

「もったいない」

食事の光景に戻ります。自覚症状がないのですが、子どもから「食いしん坊」と言われています。

以前、お魚を箸で取って口に運ぼうとしたとき、「それいのちだよね？」と娘に聞かれました。そして、お肉やお野菜を取ったときも、「それもいのちだよね？」と聞かれました。

悪気があって言っているわけではないのですが、言われた私は少しドキッとしつつも、「そ、そうだね」と答え、そんなことも言えるようになったんだなとうれしくもありました。

「そうだね。みんないのちだね。人はそうしたいのちをいただかないと生きていけないから感謝していただくこうね」と話しました。食前のことばが心に届いていることが伺うかがえました。

一方で私たちは、年間に多くの食品ロスを生んでいることは大いに反省すべきことです。また、食文化は大切ですが、大食いや早食いを競い合うテレビ番組が人気を得ている状況も憂うれうべきことではないかと思えます。「もったいない」も、「ののさま教育」で大切にされています。

金子みすゞさんの有名な「大漁」という作品があります。

朝焼け小焼けだ

大漁だ

大場鯛の大漁だ

浜は祭りのようだけど

海のなかでは何万の

鯛のとむらいるだらう

(『金子 みすゞ全集』)

海の中の情景描写には、他者のいのちをいただいてしか生きていけない私たちの罪深さが柔らかに表現されているように見えます。

親鸞聖人は、ご著書の中に『涅槃経』の「無慚愧は名づけて人とせず」の文を引用されています。

人としての「まことの生き方」の基準を慚愧(申し訳ないと恥じる心)の有無に見ておられます。「ののさま」のお育てには、私たち大人も生きる中で見失いがちな『いのちの真実』の教えがすべて含まれています。『ののさま教育』をいただいているから良かったと感じます。今後もしのちを生きる喜びと、慚愧の気持ちを忘れずにお念仏申しつつ、共に「まことの生き方」を大切にする人であり続け、仏になる道を歩みたいと思えます。

本願寺新報 令和2年2月20日号掲載



坊守より 腹話術教室

一昨年からは、腹話術を教えています。

練習の日程は、習いにおいでになる方との相談で決めていますが、だいたい月一回で、水曜日の午後1時から3時くらいまで行っています。(土曜日の午後も可能性があります。)



発声法や、人形の動かし方などの基本を、短い台本に沿って練習しています。

また、折り紙で色々な造形を楽しんだりもしています。(こちらだけでなく、折り紙のサークルになっても楽しいなど思っています)

お話をするのが好きな方、造

形の好きな方、ちょっと覗きにおいでになりませんか。謝礼等はいただいています。

住職より

「教誓寺だより」新年号で、私の体調について報告をさせて頂きました。続報をさせて頂きます。

2月の初旬に、放射線の小さなカプセルを前立腺に埋め込む手術を受けました。入院は、3泊4日の短期間で済み、手術翌日には歩行を許され、シャワーにも入れるという軽いものでした。これからは数ヶ月に一度の通院で済みそうです。

この治療を受けて、いまさらながらに日本の医療制度の有り難さを感じました。門信徒の皆様にはご心配をおかけしてすみませんでした。今回の手術で、当面は癌の心配をしなくて済みそうなので、



皆様もどうぞご安心ください。

彼岸会法要のご案内

彼岸とは、仏さまのさとりの世界、お浄土のことです。様々な煩惱に生きる私たちの生活の中で、夕日が真西、お浄土の方向に沈む春分の日を中心とした1週間、彼岸(お浄土)を思いながらお勤めする法要です。

教誓寺彼岸会法要

3月20日(金) 春分の日

午後2時より

ご都合のつく方は、

時間に合わせて

お参り下さい。

○ご一緒にお経を上げて

お勤めいたしますよう

*お彼岸の期間は

春分の日の前三日間と

後の三日間の七日間です。

今年は

3月17日(火)～23日(月)

○新型コロナウイルスへの対応
連日、新型コロナウイルス関連のニュースがひっきりなしに流れて、恐ろしさで打つ手のなさにもどかしさを感じています。現在は、政府による2週間の色々な自粛要請の期間ですが、その期間が過ぎたからと言って、お彼岸のころには安全になって

いるとは思えません。

お墓参りだけで言うと、開放空間で心配はないと思いますが、本堂内が心配な方もいらっしゃると思います。

玄関では、アルコールでの手指消毒を実施しています。空間除菌剤の手配ができましたので、室内も安心してお過ごしになれると思います。

また、20日から22日の間は人出も多くなりがちです。ので、平日にお出かけ下さるとゆったりとお参り出来ると思っています。

どうしてもお出かけに出来ない時は、お寺にご連絡下されば、お花やお線香をお供えして、あなたの代わりに墓参をすることも出来ます。

維持(会)費 進納のお願い

教誓寺総代・世話人一同

令和2年度の教誓寺「維持費」のご進納をお願いいたします。

詳しくは、同封の別紙

教誓寺維持費(護持会費)

納入のお願いをご参照下さい。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
10810073

東京都港区三田 一十二十一

〇三三四五二二三九
